

2021年8月30日

各 位

会社名 日本調剤株式会社
代表者名 代表取締役社長 三津原 庸介
(コード番号 3341 東証第1部)
問合せ先 取締役財務部長 小城 和紀
(TEL. 03-6810-0800)

「デジタルトランスフォーメーション戦略 (DX 戦略)」の策定に関するお知らせ

当社は、この度、「デジタルトランスフォーメーション戦略 (DX戦略)」を策定しましたのでお知らせいたします。

記

当社は、日本調剤グループが目指す2030年の姿として「長期ビジョン～2030年に向けて～」を策定しており、大きな環境変化を乗り越え、さらなる飛躍を可能とする強固な経営基盤の構築を進めています。特に調剤薬局事業においては、ICT戦略を成長の重要な要素として捉え、調剤業務を支える基幹システムである「調剤システム」や電子お薬手帳「お薬手帳プラス」を自社開発するなど、長期間にわたりICT投資を実施してまいりました。2020年9月には、オンライン服薬指導システム「日本調剤オンライン薬局サービス」を開発し運用を開始しています。

昨今のデジタル化による事業環境の変化が進みつつある中、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により、既存の手法が通用しないニュー・ノーマルの時代に突入しており、医療分野におけるデジタル化が急速に進みつつあります。こうした状況の中、既存業務のデジタル化のみならず、デジタルの力によってビジネスモデルそのものを変革し、より強靱な経営基盤を構築していくデジタルトランスフォーメーションに対する取り組みは、企業経営において重要であると捉えています。

医療分野においては、オンライン服薬指導の普及や電子処方箋の活用に向けた議論が開始され、マイナンバーカードを保険証として利用できるオンライン資格確認がプレ運用されるなど、デジタルトランスフォーメーションに向けた様々な施策が進められています。

当社では、急速に進む医療分野におけるデジタルトランスフォーメーションに先行して取り組むとともに、企業の持続的な成長と、医療の枠を超えた新たな価値創出を実現していくため、デジタルトランスフォーメーション戦略 (DX戦略) を策定しました。

デジタルトランスフォーメーション戦略 (DX戦略) の詳細は、別紙をご覧ください。

以 上



2021年8月

DX 戦略

デジタルトランスフォーメーション



目次

- 日本調剤が目指す2030年の姿
- 取り巻く環境変化
- DX実現による価値提供
- 医療版DX
- 各DX戦略実現による価値提供
- DX戦略に沿った施策
 - コアビジネスの変革
 - 新規ビジネスの創出
 - 業務プロセスの変革
- DX推進基盤：組織体制
- DX推進基盤：DX人材
- DX推進基盤：IT環境



長期ビジョン

大きな環境変化を乗り越え、
さらなる飛躍を可能とする強固な経営基盤を構築

デジタルトランスフォーメーション（DX）と
サステナビリティを
経営戦略へ取り込むことにより
ビジネスモデルを進化させ、持続的な成長を実現

日本調剤は、ICTを成長のための重要な要素として捉え、長期間にわたりICT戦略に取り組んできました。今後も、デジタルの活用によるビジネスの変革に取り組み、価値を創造し、更なる成長を実現します。

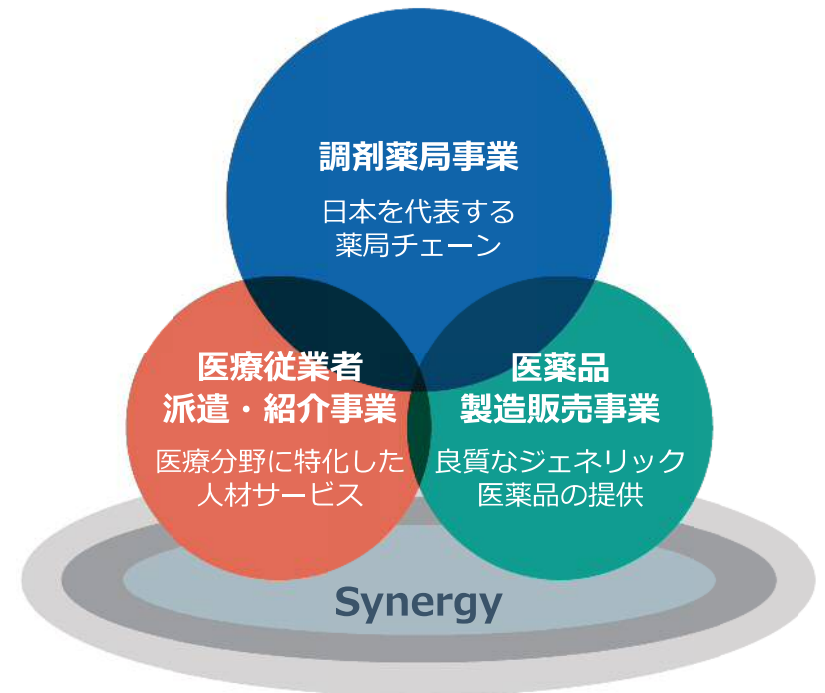
2021年度

売上高 **2,789億円**
(連結)

※売上高：単位未満切捨て

2030年度

売上高 **1兆円超**
(3事業合算値予想)



3事業のシナジーを
最大限発揮し、事業を拡大



環境変化を踏まえた次世代薬局の姿

超高齢社会・人口減少トレンドを迎えつつある我が国では、社会保障費抑制の動きや労働者の人手不足の影響を受け、医療を取り巻く環境が大きく変わりつつあります

環境変化

社会の要請

かかりつけ薬剤師・薬局への
役割期待
薬局の機能分化
(地域連携薬局/専門医療機関連携薬局)
ジェネリック医薬品の使用促進
超高齢社会、
人口減少社会への対応

業界再編

調剤薬局の再編
ジェネリック医薬品
メーカーの再編

医療のICT化

電子お薬手帳の普及
オンライン服薬指導の普及
医療情報のデジタル化
電子処方箋開始への対応

政府施策

薬機法改正
調剤報酬改定
薬価改定
働き方改革

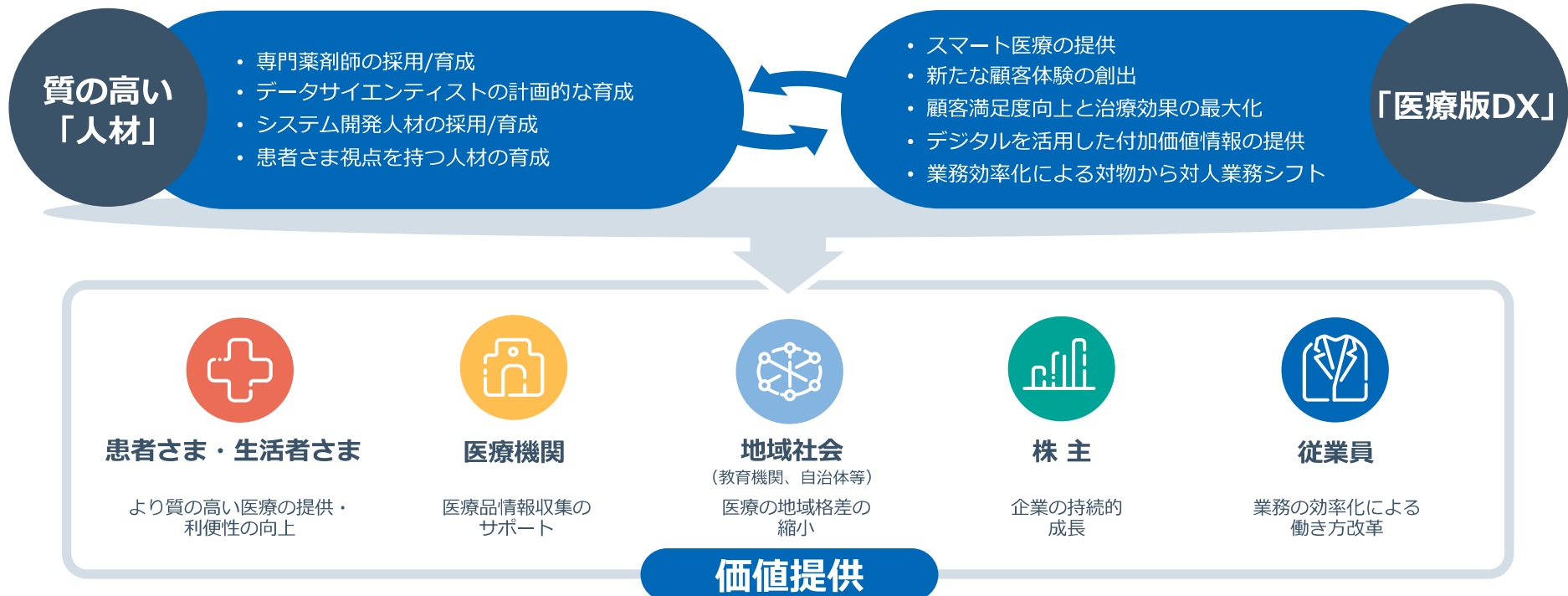
日本調剤では質の高い「人材」と「医療版DX」の融合により、
既存事業のデジタルトランスフォーメーションと新たな収益基盤の創出を実現。
医療安全と効率化された業務の仕組みを両立し、社会的課題の解決に貢献。



人材と医療版DXの融合

質の高い「人材」と「医療版DX」の融合により、
既存サービスの進化と新たな医療サービスの創出

既存サービスの進化と新たな医療サービスの創出を実現し、
5大ステークホルダーに価値を提供





5つのDX戦略

コアビジネスの変革、新規ビジネスの創出、業務プロセスの変革の各領域において、DXによる価値創造と飛躍的な成長を実現





各DX戦略実現による価値提供

5つのDX戦略による各ステークホルダーへの価値提供



*1:2021年7月末時点

*2:2021年7月末時点

*3:対象病院に対する各件数の割合

*4:2021年6月末時点

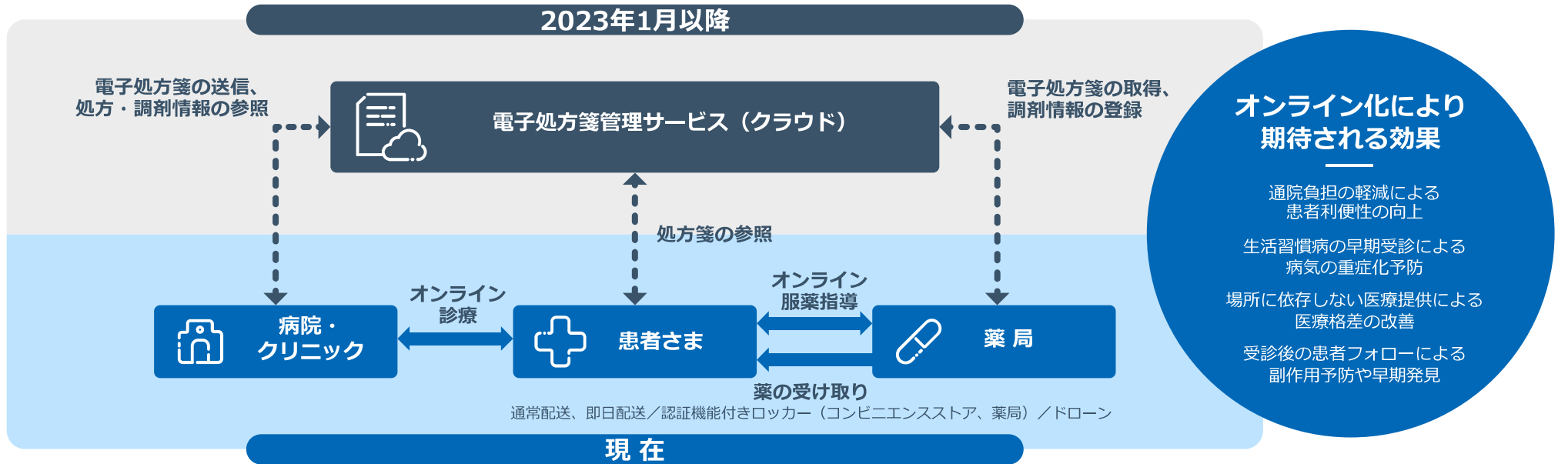
*5:2020年4月～2021年3月



オンライン化が進む医療への体制構築



誰もが診療、服薬指導、薬の配送までを
シームレスに受けられるスマート医療の提供

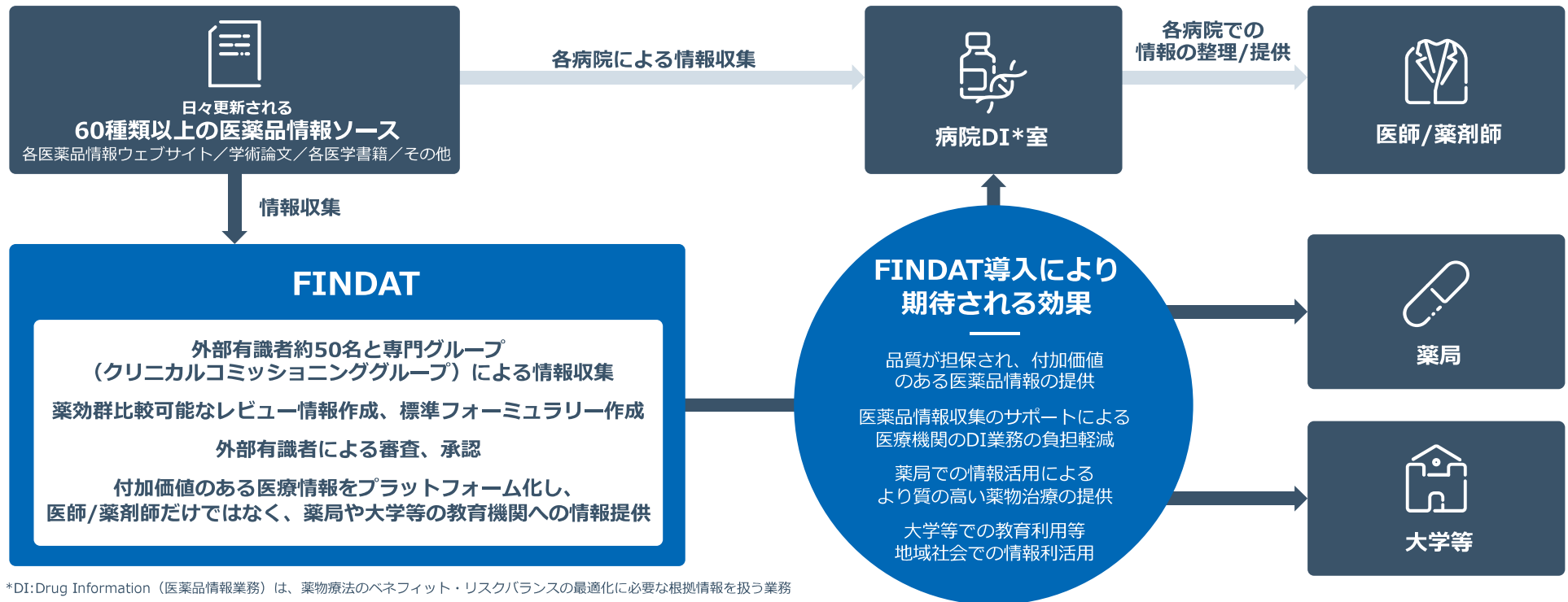


処方箋の電子化対応や多様な薬の受け取り方法をオンライン化することで、
患者さまが場所に依存せずに医療サービスが受けられる体制を実現。
予防・未病・治療・重症化予防・在宅医療までの一連のケアサイクルを支援し、
高度医療から地域医療まで幅広い医療に貢献。



DX戦略に沿った施策（新規ビジネスの創出）

医薬品情報プラットフォームFINDATによる 付加価値情報の提供 病院や薬局のDI*業務をサポート



DI業務として、多数の情報ソースの収集・整理のため、各病院で専門人材の採用と多くのリソースを投入。FINDATを導入することで、付加価値の高い情報の提供が可能となると同時に、各病院のDI室の業務負担を軽減。



DX戦略に沿った施策（業務プロセスの变革）

デジタルを活用した業務の効率化による 業務時間の削減及び対人業務時間の創出



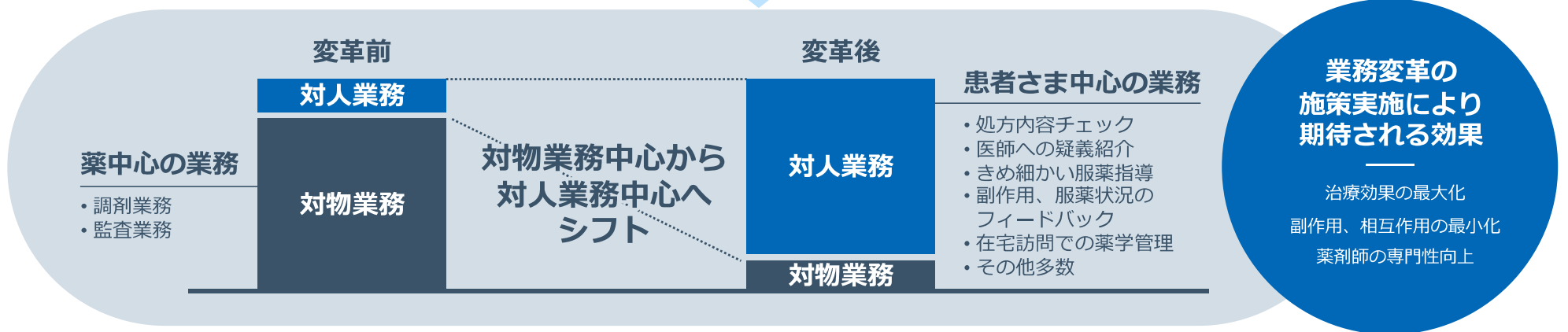
効率化により捻出された時間を活用した医療サービスの充実

機器活用による調剤業務の正確性・安全性・効率性の確保

処方内容のデジタル化、
機器とのデータ連携

調剤ロボットによる
調剤業務

画像認識機器による
監査業務



処方内容をデジタル化、データ連携させることにより、調剤ロボットによる調剤業務と画像認識機器による監査業務を実現し、業務の正確性・安全性・効率性を確保。これらにより創出された時間を対人業務へ振り向けることで、医療サービスの充実、医薬品の適正使用、薬剤師の専門性向上に貢献。



DX推進基盤：組織体制

事業部門とシステム部門の両輪でのDX推進体制

トップ自らの強力なコミットメントと、事業側とシステム側の両輪の体制により、DXを強力に推進





多面的な視点を持つ人材の採用と育成

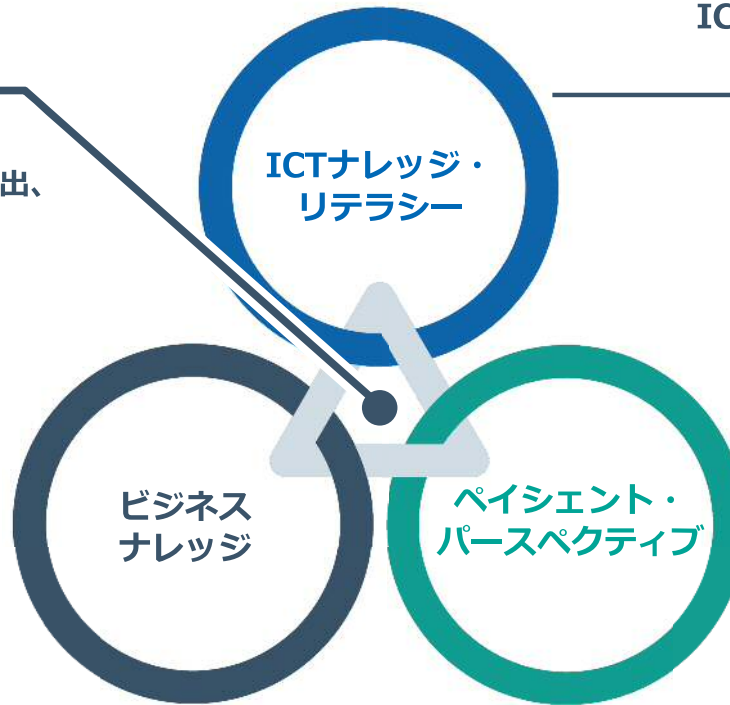
多様なバックグラウンドやスキルを持つ人材の採用と育成

目指すDX推進人材

ナレッジ・リテラシー・患者視点を持ち、
既存ビジネスモデル変革、新規ビジネス創出、
業務プロセスの変革・創造を
実行できる人材を採用・育成

経営の視点を持ち、
医療の規制・制度を
理解している

- 経営人材育成研修
- 階層別研修
- オーベン・ネーベン制度



ICTへの技術的理解やリテラシーを持ち、
システム開発をマネジメントする

- データサイエンティスト研修 (general / advanced)
- システム研修(機械学習、AI)
- セキュリティ研修
- システム開発人材の採用

患者視点で業務プロセスを
捉えなおす

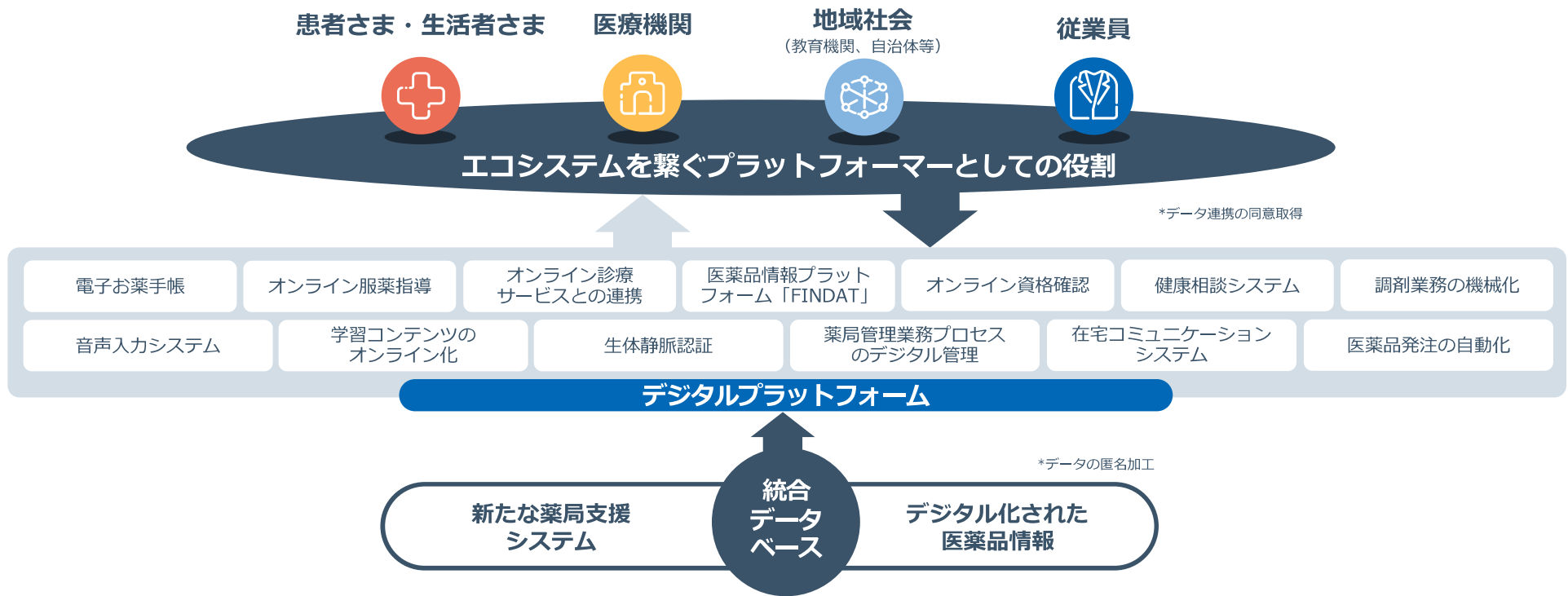
- 患者さま視点に基づいた匿名化データ分析やマーケティング調査による知財の蓄積
- 患者満足度調査
- エクセレントサービス研修
- CSアワード

新規採用、社内公募、他部門からの登用などによりDX推進人材を採用・確保。
同時に、多面的な視点を持つDX人材を育成するため、様々な研修や評価制度を整備。
今後もDX推進人材の採用と育成の充実を図る。



DX推進のための強固なIT基盤の整備

様々なステークホルダーを繋ぎ、新たな価値を創出するデジタルプラットフォームを整備します



薬局から得られる各種データ*や様々な医薬品情報ソースより得られるデータを一元化し分析、評価。これらの総合データベースを活用し、デジタルプラットフォームを介してステークホルダーへ新たな価値を創出。